

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ①グリーン・イノベーション分野(1/9)

| | 評価区分(※) | 総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算) | I | II | III | 総合評価に係る専門家所見(主なもの) |
|-----------------------------------|---------|--------------------------------|--|---|-----------------------|--|
| | | | 目標に向けた取組の進捗 | 支援措置の活用と地域独自の取組の状況 | 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決 | |
| あわじ環境未来島特区 (兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市) | 正 | 4.8 | 4.9 進捗度 ・エネルギー(電力)自給率 141% ・二酸化炭素排出量の削減 120% ・再生可能エネルギー創出量 139% ・新規就農者数 105% ・再生利用が可能な荒廃農地面積の減少 121% 等 | 4.3 規制の特例等 ・太陽光発電施設の系統連系に係る迅速な手続の明文化 等 地域独自の取組 ・住宅用太陽光発電システム設置費補助金 ・BDF(バイオディーゼル燃料)推進事業 ・淡路市竹資源利用促進事業 等 | 5.0 | <p>・めざす特区の地域像が明確で、評価指標との関係が分かりやすい。またバランスよく設定された指標に対応し、エネルギーと農を基盤とした持続可能な地域づくりの実現に向けた様々な取り組みを行い、著しく優れている。</p> <p>・系統連系の手続きの明文化、農業、エネルギー事業の財政支援など着実に事業を進めて、人口やエネルギー自給などの成果に確実につなげていることは高く評価される。</p> <p>・エネルギーに関する取り組みには地域独自の取り組みも見られ、幅広い再エネ推進が評価される。引き続き、地域資源を活用した再エネ活用への積極的な取り組みが期待される。</p> <p>・今後は、エネルギーと農業の取り組みの融合化により両者の相乗効果を狙うような方向性、新たな産業創成の方向性などが考えられる。</p> |

※「正」とは平成28年3月末までに計画が認定された地区の評価、「準」とは平成28年3月末時点では計画が認定されていない地区の評価を意味する。